

平成 18年 3月期 第3四半期財務・業績の概況(連結)



平成 18年 2月 2日

上場会社名 旭化成株式会社

(コード番号: 3407 東京・大阪・名古屋 各第1部・福岡・札幌)

(URL <http://www.asahi-kasei.co.jp/>)

代表者 代表取締役社長 蛭田 史郎

問合せ先責任者 広報室長 水野 雄氏

TEL (03) 3507 - 2060

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無: 有 (法人税や引当金の計上基準等に一部簡便な方法を採用しております。)
 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無: 有 (当連結会計年度より「固定資産の減損に係る会計基準」を適用しております。)
 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無: 有 連結(新規)1社 (除外)2社 持分法(新規)3社 (除外)3社

2. 平成 18年 3月期第3四半期の業績概況 (平成 17年 4月 1日 ~ 平成 17年 12月 31日)

(1) 経営成績 (連結) の進捗状況 (注) 百万円未満の金額は、四捨五入して表示している。

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年 3月期第3四半期	1,090,749	7.8	81,630	8.9	80,785	8.5
17年 3月期第3四半期	1,011,787	11.9	89,650	100.8	88,259	128.0
(参考) 17年 3月期	1,377,697		115,809		112,876	

	四半期(当期)純利益		1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	百万円	%	円	銭	円	銭
18年 3月期第3四半期	46,581	0.3	33	25		
17年 3月期第3四半期	46,703	135.9	33	34		
(参考) 17年 3月期	56,454		40	16		

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示す。

(2) 財政状態 (連結) の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
18年 3月期第3四半期	1,412,554	574,098	40.6	410	09
17年 3月期第3四半期	1,320,759	499,503	37.8	356	68
(参考) 17年 3月期	1,270,057	511,726	40.3	365	43

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年 3月期第3四半期	37,198	41,466	12,148	76,712
17年 3月期第3四半期	50,637	43,779	3,597	75,881
(参考) 17年 3月期	98,299	62,845	39,557	68,456

3. 平成 18年 3月期の連結業績予想 (平成 17年 4月 1日 ~ 平成 18年 3月 31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	1,500,000	103,000	59,000	42 14

上記予想には、本資料の発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれております。上記予想と実際の業績の間には、今後の様々な要因によって大きく差異が発生する可能性があります。

経営成績及び財政状態（9ヶ月間の累計）

（1）経営成績

業績全般

当第3四半期（平成17年4月～12月）における我が国経済は、好調な企業業績を背景に民間設備投資が増加し、個人消費が持ち直すなど、景気の回復傾向にありましたが、原油価格の高騰に伴うナフサなどの原燃料価格の高騰とデフレ経済の継続で、事業を取り巻く環境は厳しい状況で推移しました。

当社グループの当第3四半期における連結業績は、海外需要が好調なケミカル事業を中心に売上を伸ばしたことなどから、売上高は1兆907億円で、前年同期比790億円（7.8%）の増収となり、営業利益は816億円で、前年同期比80億円（8.9%）の減益となりました。

当社グループでは、退職給付会計における数理計算上の差異を、発生の翌期に1年間で営業費用として処理する方法を採用しているため、営業利益の前年同期との比較については、数理計算上の差異償却による影響額（以下「数理計算上の差異」と呼びます）の差額として112億円の減益要因（当第3四半期の数理計算上の差異33億円の益と、前第3四半期の数理計算上の差異145億円の益の差額）が含まれています。この数理計算上の差異を除いた営業利益は784億円で、前年同期比32億円（4.3%）の増益となりました。

また、経常利益は808億円で、前年同期比75億円（8.5%）の減益となり、当四半期純利益は466億円で、前年同期比1億円（0.3%）の減益となりました。

（単位：億円）

	平成18年3月期第3四半期	平成17年3月期第3四半期	前年同期比
売上高	10,907	10,118	7.8%
営業利益 (数理計算上の差異を除く営業利益)	816 (784)	897 (751)	8.9% (4.3%)
経常利益	808	883	8.5%
当四半期純利益	466	467	0.3%

監査法人による監査は受けていません。

セグメント別概況

当社グループの主要事業別の営業状況について、7つの事業会社に対応した事業セグメントに「サービス・エンジニアリング等」を加えた8つのセグメントに区分して説明致します。各セグメント内の（事業の概況）については、数理計算上の差異を除いた実績に基づき記載

しています。また、前年同期との比較については、平成17年4月にレオナ繊維事業を旭化成せんい(株)から旭化成ケミカルズ(株)へ移管したことに伴い、当該事業の前年同期の売上高・営業損益をせんい・セグメントからケミカルズ・セグメントに組み替えたうえで行っています。

なお、各セグメント別の数理計算上の差異につきましては、「参考資料」のセグメント別営業損益の表中に記載しています。

<ケミカルズ>セグメント・・・ケミカル事業

売上高は4,901億円で、前年同期比658億円(15.5%)の増収となり、営業利益は343億円で、数理計算上の差異の益が28億円減少したものの、前年同期比32億円(10.4%)の増益となりました。

(事業の概況)

汎用型事業は、原燃料価格高騰の影響を受けたものの、好調な海外需要を背景に売上を伸ばし、業績は堅調に推移しました。汎用型事業のうちモノマー系事業は、アクリロニトリルが市況改善に努め売上を伸ばしましたが、スチレンモノマーが市況悪化の影響を受けたことなどから、業績は前年同期を下回りました。ポリマー系事業は、市況改善に努めたことや、海外需要が好調なエンジニアリング樹脂が売上を伸ばしたことなどから、業績は前年同期を上回りました。

設備の拡張など、積極的に経営資源を投入している高付加価値系事業は、リチウムイオン二次電池用の微多孔膜「ハイポア™」や、イオン交換膜法食塩電解システムのプラント及びイオン交換膜が好調に推移するなど、業績は前年同期を上回りました。

<ホームズ>セグメント・・・住宅事業

売上高は2,756億円で、前年同期比165億円(6.4%)の増収となりましたが、営業利益は144億円で、数理計算上の差異の益が16億円減少したことも影響し、前年同期比30億円(17.5%)の減益となりました。

(事業の概況)

建築請負事業は、1戸あたりの単価が上昇したものの、引渡し戸数が減少したことから、業績は前年同期を下回りました。分譲事業は、大型分譲マンションが竣工したことから売上を伸ばし、また、住宅周辺事業は、不動産事業及びリフォーム事業が好調に推移し、売上を伸ばしました。

<ファーマ>セグメント・・・医薬・医療事業

売上高は810億円で、前年同期比16億円(2.1%)の増収となりましたが、営業利益は100億円で、数理計算上の差異の益が15億円減少したことも影響し、前年同期比20億円(16.7%)の減益となりました。

(事業の概況)

医薬事業は、排尿障害治療薬「フリバスTM」、抗うつ薬「トレドミンTM」が順調に売上を伸ばし、業績は前年同期を上回りました。医療事業は、人工腎臓「APSTM」の販売量が国内、海外ともに拡大し売上を伸ばしましたが、設備増強による償却負担の増加などにより、業績は前年同期を下回りました。

<せんい>セグメント・・・繊維事業

売上高は655億円で、前年同期比38億円(5.5%)の減収となり、営業利益は31億円で、数理計算上の差異の益が8億円減少したことも影響し、前年同期比32億円(50.7%)の減益となりました。

(事業の概況)

繊維事業は、原燃料価格の高騰や衣料品価格下落の影響を強く受けました。裏地などに使われるセルロース繊維「ベンベルグTM」の販売は堅調に推移したものの、ポリウレタン弾性繊維「ロイカTM」の販売価格が海外向けを中心に下落し、合繊長繊維不織布「エルトラスTM」なども原燃料価格高騰の影響を受けたことなどから、業績は前年同期を下回りました。

<エレクトロニクス>セグメント・・・エレクトロニクス事業

売上高は760億円で、前年同期比50億円(7.1%)の増収となりましたが、営業利益は144億円で、数理計算上の差異の益が8億円減少したことから、前年同期比1億円(0.4%)の減益となりました。

(事業の概況)

電子部品事業は、携帯電話やデジタル家電用途での好調な需要を背景に、業績は堅調に推移しました。電子材料事業は、大型液晶パネルの製造工程で用いられる防塵保護膜ペリクルが順調に売上を伸ばし、プリント配線基板用のドライフィルムレジスト「サンフォートTM」も海外での売上が伸長したことなどから、業績は前年同期を上回りました。

<建材>セグメント・・・建材事業

売上高は439億円で、前年同期比19億円(4.2%)の減収となりましたが、営業利益は37億円で、数理計算上の差異の益が10億円減少したものの、前年同期比13億円(53.9%)の増益となりました。

(事業の概況)

建築資材事業は、景気回復に伴う堅調な建築需要を背景に、軽量気泡コンクリート「ヘーベルTM」が売上を伸ばし、業績は前年同期を上回りました。住宅資材事業は、「ヘーベルTMパワーボード」が拡販に努め、業績を伸ばしました。また、パイルなどを取り扱う基礎事業や断熱材事業は、堅調に推移しました。

<ライフ&リビング>セグメント・・・生活製品関連事業

生活製品関連事業は、大日本インキ化学工業(株)との合併会社であるサンディック(株)に二軸延伸ポリスチレン(OPS)シート事業を移管した影響で、売上高は410億円で、前年同期比56億円(12.1%)の減収となりました。営業利益は45億円で、数理計算上の差異の益が4億円減少したことも影響し、前年同期比10億円(18.2%)の減益となりました。

(事業の概況)

ホームプロダクツ事業は、原燃料価格の高騰の影響はあったものの、「サランラップ™」の販売が好調に推移し、業績は前年同期を上回りました。パッケージング事業は、原燃料価格の高騰のなか、コストの削減に取り組んだものの、業績は前年同期を下回りました。

<サービス・エンジニアリング等>セグメント

売上高は177億円で、前年同期比14億円(8.3%)の増収となり、営業利益は18億円で、前年同期比1億円(8.7%)の増益となりました。人材派遣・紹介事業やエンジニアリング事業を中心に、業績は堅調に推移しました。

通期の見通し

平成17年11月8日に発表しました通期の業績予想に対し、医薬・医療、繊維、生活製品関連の各事業が弱含みに推移していますが、ケミカル事業やエレクトロニクス事業が好調に推移することなどから、売上高や利益については前回予想と同額となることを見込んでいます。

(2) 財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等**財政状態**

当第3四半期末の総資産は、前期末に比べて1,425億円増加し、1兆4,126億円となりました。その増加の主な要因は、ケミカル事業の原燃料価格の高騰などにより受取手形及び売掛金が441億円増加したことや、保有株式の時価が上昇したことなどにより投資その他の資産が468億円増加したことなどによるものです。

有利子負債は、主として運転資金に対応するために銀行借入等を実施したことなどにより前期末に比べて282億円増加し、2,770億円となりました。

株主資本は、前期末に比べて624億円増加し、5,741億円となりました。この結果、株主資本比率は40.6%となりました。

キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益749億円や減価償却費512億円などの収入があった一方で、売掛債権の増加額440億円や、棚卸資産の

増加額 3 2 3 億円などがあったことから、差し引き 3 7 2 億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得 4 0 9 億円などの投資を実施したことなどにより、4 1 5 億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、銀行借入等による資金調達などの収入が、親会社による配当の支払いを上回り、1 2 1 億円の収入となりました。非連結子会社の連結化に伴う増加額 1 億円などもあり、これらの結果、当第 3 四半期の現金及び現金同等物の期末残高は、前期末より 8 3 億円増加し、7 6 7 億円となりました。

(要約)連結損益計算書

(平成17年4月1日～平成17年12月31日)

科 目	当第3四半期(9ヶ月)A		前第3四半期(9ヶ月)B		増減額 A - B		(参考) 平成17年3月期	
	金 額	百分比	金 額	百分比	金額	増減率	金 額	百分比
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売 上 高	1,090,749	100.0	1,011,787	100.0	78,962	7.8	1,377,697	100.0
売 上 原 価	815,392	74.8	733,290	72.5	82,102	11.2	1,010,526	73.4
売 上 総 利 益	275,357	25.2	278,497	27.5	3,140	-1.1	367,171	26.6
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	193,727	17.7	188,847	18.6	4,880	2.6	251,362	18.2
営 業 利 益	81,630	7.5	89,650	8.9	8,020	-8.9	115,809	8.4
営 業 外 収 益	(6,082)	0.5	(6,182)	0.6	(100)	-1.6	(10,607)	0.8
受 取 利 息 ・ 配 当 金	2,260		2,012		248		2,286	
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	1,045		1,817		772		2,617	
雑 収 益	2,777		2,354		423		5,704	
営 業 外 費 用	(6,926)	0.6	(7,573)	0.8	(647)	-8.5	(13,540)	1.0
支 払 利 息	2,635		2,803		168		3,648	
雑 損 失	4,291		4,770		479		9,892	
経 常 利 益	80,785	7.4	88,259	8.7	7,474	-8.5	112,876	8.2
特 別 利 益	(1,874)	0.2	(2,816)	0.3	(942)	-33.5	(4,800)	0.3
投 資 有 価 証 券 売 却 益	-		1,892		1,892		3,373	
固 定 資 産 売 却 益	1,782		773		1,009		1,016	
そ の 他	92		151		59		411	
特 別 損 失	(7,742)	0.7	(17,885)	1.8	(10,143)	-56.7	(26,535)	1.9
固 定 資 産 処 分 損 失	1,942		5,451		3,509		8,569	
減 損 損 失	3,799		-		3,799		-	
構 造 改 善 費 用	1,269		12,147		10,878		14,921	
そ の 他	731		287		444		3,046	
税 金 等 調 整 前 四 半 期 (当 期) 純 利 益	74,918	6.9	73,190	7.2	1,728	2.4	91,141	6.6
法 人 税 等	28,085	2.6	26,058	2.6	2,027		34,005	2.5
少 数 株 主 損 益	損 252	-0.0	損 429	-0.0	益 177		損 682	-0.0
四 半 期 (当 期) 純 利 益	46,581	4.3	46,703	4.6	122	-0.3	56,454	4.1

監査法人による監査は受けていません。

(要約)連結貸借対照表

(平成17年12月31日現在)

科 目	当第3四半期末A		前年度末B		増減額A - B		中間期末	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	金額	金額	構成比
(資産の部)	百万円	%	百万円	%	百万円	百万円	百万円	%
流動資産	(692,997)	49.1	(589,719)	46.4	(103,278)	(611,481)	46.9	
現金及び預金	76,336		68,279		8,057	60,659		
受取手形及び売掛金	296,302		252,210		44,092	259,174		
有価証券	436		307		129	200		
棚卸資産	234,752		202,521		32,231	213,875		
その他	85,172		66,401		18,771	77,574		
固定資産	(719,557)	50.9	(680,338)	53.6	(39,219)	(693,027)	53.1	
有形固定資産	416,167		419,969		3,802	417,909		
無形固定資産	32,623		36,411		3,788	33,962		
投資その他の資産	270,767		223,958		46,809	241,156		
資産合計	1,412,554	100.0	1,270,057	100.0	142,497	1,304,508	100.0	

科 目	当第3四半期末A		前年度末B		増減額A - B		中間期末	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	金額	金額	構成比
(負債の部)	百万円	%	百万円	%	百万円	百万円	百万円	%
流動負債	(499,701)	35.4	(403,022)	31.7	(96,679)	(409,472)	31.4	
支払手形及び買掛金	163,333		133,917		29,416	140,755		
短期借入金	73,755		31,360		42,395	40,154		
商業・ペーパー	20,000		-		20,000	-		
一年以内償還予定社債	27,000		31,000		4,000	22,000		
その他	215,613		206,744		8,869	206,563		
固定負債	(331,734)	23.5	(348,956)	27.5	(17,222)	(346,198)	26.5	
社債	84,000		107,000		23,000	104,000		
長期借入金	72,246		79,246		7,000	77,320		
退職給付引当金	133,511		134,805		1,294	133,680		
その他	41,976		27,906		14,070	31,198		
負債合計	831,435	58.9	751,979	59.2	79,456	755,670	57.9	
(少数株主持分)								
少数株主持分	7,022	0.5	6,352	0.5	670	6,773	0.5	
(資本の部)								
資本金	103,389		103,389		-	103,389		
資本剰余金	79,455		79,423		32	79,427		
利益剰余金	329,367		295,594		33,773	315,200		
その他有価証券評価差額金等	79,104		50,291		28,813	61,148		
自己株式	17,217		16,969		248	17,099		
資本合計	574,098	40.6	511,726	40.3	62,372	542,064	41.6	
負債、少数株主持分及び資本合計	1,412,554	100.0	1,270,057	100.0	142,497	1,304,508	100.0	

(参考)有利子負債

	当第3四半期末	前年度末	増減額	(百万円) 中間期末
短期借入金	73,755	31,360	42,395	40,154
商業・ペーパー	20,000	-	20,000	-
一年以内償還予定社債	27,000	31,000	4,000	22,000
社債	84,000	107,000	23,000	104,000
長期借入金	72,246	79,246	7,000	77,320
割引手形	11	225	214	235
(計)	277,012	248,831	28,181	243,709

監査法人による監査は受けていません。

(要約) 連結キャッシュ・フロー計算書

(平成17年 4月 1日 ~ 平成17年12月31日)

科 目	当第 3 四半期 A	前第 3 四半期 B	増減額 A - B	前年度
	(9 ヶ月)	(9 ヶ月)		
	金 額	金 額	金 額	金 額
	百万円	百万円	百万円	百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー				
税金等調整前四半期 (当期) 純利益	74,918	73,190	1,728	91,141
減価償却費	51,220	52,207	987	71,531
売上債権の増加額	44,049	27,870	16,179	15,117
棚卸資産の増加額	32,342	34,625	2,283	20,317
仕入債務の増加額	28,952	39,949	10,997	13,037
その他	41,500	52,214	10,714	41,975
営業活動によるキャッシュ・フロー	37,198	50,637	13,439	98,299
投資活動によるキャッシュ・フロー				
有形固定資産の取得による支出	40,852	56,936	16,084	72,408
投資有価証券の取得による支出	3,521	777	2,744	1,889
その他	2,907	13,934	11,027	11,451
投資活動によるキャッシュ・フロー	41,466	43,779	2,313	62,845
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,148	3,597	15,745	39,557
現金及び現金同等物に係る換算差額	234	182	52	122
現金及び現金同等物の増減額	8,113	3,443	4,670	3,981
現金及び現金同等物の期首残高	68,456	70,898	2,442	70,898
非連結子会社の連結化に伴う増加額	142	1,540	1,398	1,540
現金及び現金同等物の期末残高	76,712	75,881	831	68,456

監査法人による監査は受けていません。

1. セグメント別売上高及び営業損益(平成17年4月から12月までの累計)

(1) 連結売上高

(億円)

	H18/3期	H17/3期	増減額 (A)-(B)	増減率 %	当期予想	前期
	第3四半期 9ヶ月実績(A)	第3四半期 9ヶ月実績(B)				
ケミカルズ	4,901	4,243	658	15.5	6,600	5,702
ホームズ	2,756	2,590	165	6.4	4,030	3,758
ファーマ	810	794	16	2.1	1,080	1,039
せんい	655	693	-38	-5.5	910	915
エレクトロニクス	760	709	50	7.1	1,030	930
建材	439	459	-19	-4.2	580	599
ライフ&リビング	410	467	-56	-12.1	520	591
サービス・エンジニアリング等	177	163	14	8.3	250	242
合計	10,907	10,118	790	7.8	15,000	13,777

(2) - 1 連結営業損益 (カッコ内の数字は数理計算上の差異償却額(内数))

(億円)

	H18/3期	H17/3期	増減額 (A)-(B)	増減率 %	当期予想	前期
	第3四半期 9ヶ月実績(A)	第3四半期 9ヶ月実績(B)				
ケミカルズ	(13) 343	(40) 311	32	10.4	(15) 385	(58) 378
ホームズ	(9) 144	(25) 174	-30	-17.5	(12) 290	(34) 290
ファーマ	(2) 100	(17) 120	-20	-16.7	(2) 105	(24) 134
せんい	(5) 31	(13) 62	-32	-50.7	(6) 35	(19) 83
エレクトロニクス	(0) 144	(8) 145	-1	-0.4	(-0) 190	(11) 176
建材	(0) 37	(11) 24	13	53.9	(0) 35	(15) 26
ライフ&リビング	(2) 45	(6) 56	-10	-18.2	(2) 50	(9) 61
サービス・エンジニアリング等	(-) 18	(-) 16	1	8.7	(-) 30	(-) 36
合計	(31) 862	(120) 908	-46	-5.1	(38) 1,120	(169) 1,183
消去又は全社	(2) 46	(25) 12	-34	-	(3) 70	(33) 25
連結営業損益	(33) 816	(145) 897	-80	-8.9	(40) 1,050	(202) 1,158

* 当期より、レオナ繊維事業を「せんい」セグメントから「ケミカルズ」セグメントに移管したため、
前期の連結売上高及び連結営業損益はその影響分を組み替えて表記している。

(2) - 2 連結営業損益 増減要因

(億円)

	連結営業損益			増減要因					
	当第3四半期	前第3四半期	増減額	数量差	売値差	うち 為替因	コスト差等	増減	数理計算上の差異 償却額
	A	B	A-B	a	b		c	a+b+c	
ケミカルズ	343	311	32	46	263	49	-249	60	-28
ホームズ	144	174	-30	-48	142	-	-109	-15	-16
ファーマ	100	120	-20	17	-7	1	-15	-5	-15
せんい	31	62	-32	0	-8	0	-15	-23	-8
エレクトロニクス	144	145	-1	27	-14	4	-6	7	-8
建材	37	24	13	-4	14	-	13	23	-10
ライフ&リビング	45	56	-10	0	-2	0	-4	-6	-4
サービス・エンジニアリング等	18	16	1	6	0	0	-5	1	-
消去又は全社	46	12	-34	-	-	-	-11	-11	-23
合計	816	897	-80	44	388	54	-400	32	-112

数理計算上の差異償却額を除いた営業損益の増減額

2. 住宅 請負事業の状況(平成17年4月から12月までの累計)

	H18/3期	H17/3期	増減 (A)-(B)	H18/3期
	第3四半期 9ヶ月実績(A)	第3四半期 9ヶ月実績(B)		通期 見通し
受注高(億円)	2,262	2,172	90	3,130
受注戸数(戸)	10,099	10,106	7	14,266
受注残高(億円)	3,243	3,203	41	3,042
売上戸数(戸)	9,266	10,085	819	14,293
売上高(億円)	2,119	2,159	40	3,190

3. その他の項目

	H18/3期		
	第3四半期(9ヶ月実績)	第4四半期(3ヶ月予想)	通期見通し
ナフサ価格 (国産ナフサ(¥/kl))	41,100	46,600	42,475
為替レート (相場平均(¥/\$))	112	115	113

以上